



2024年8月9日

各 位

会 社 名 株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 桐 生 隆 司
(コード番号：9684 東証プライム)
問 合 せ 先 グループ財務戦略部長 濱 田 高 行
TEL (03)5292-8000

「2025年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」

(公認会計士等による期中レビューの完了)

当社は、2024年8月6日に2025年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)を開示いたしましたが、四半期連結財務諸表について、公認会計士等による期中レビューが完了しましたのでお知らせいたします。

なお、2024年8月6日に発表した四半期連結財務諸表について変更はありません。

以 上



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 株式会社 スクウェア・エニックス・ホールディングス 上場取引所 東
コード番号 9684 URL <https://www.hd.square-enix.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 桐生 隆司
問合せ先責任者 (役職名) グループ財務戦略部長 (氏名) 濱田 高行 TEL 03-5292-8000
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	69,915	△18.4	10,844	250.1	15,297	66.7	10,620	68.6
2024年3月期第1四半期	85,669	14.4	3,097	△78.5	9,178	△65.0	6,300	△65.7

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 10,921百万円 (78.4%) 2024年3月期第1四半期 6,121百万円 (△63.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	88.52	88.51
2024年3月期第1四半期	52.61	52.52

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	413,270	324,975	78.5
2024年3月期	410,876	317,129	77.0

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 324,350百万円 2024年3月期 316,496百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	10.00	—	28.00	38.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	28.00	—	43.00	71.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	310,000	△13.0	40,000	22.9	40,000	△3.7	28,000	87.8	233.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

第2四半期連結累計期間の業績予想については、開示しておりません。詳細は、【添付資料】P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	122,531,596株	2024年3月期	122,531,596株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	2,508,289株	2024年3月期	2,570,619株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	119,978,178株	2024年3月期1Q	119,753,839株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有 (任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は2024年8月6日に当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、報告セグメントをデジタルエンタテインメント事業、アミューズメント事業、出版事業、及びライツ・プロパティ等事業と定め、各々のセグメントにおいて、事業基盤の強化と収益力の向上に努めております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は69,915百万円(前年同期比18.4%減)、営業利益は10,844百万円(前年同期比250.1%増)となりました。また、為替相場が前期末と比較して円安となり為替差益が4,912百万円発生したことなどにより、経常利益は15,297百万円(前年同期比66.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は10,620百万円(前年同期比68.6%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間の報告セグメント別の状況は次のとおりであります。

○デジタルエンタテインメント事業

ゲームを中心とするデジタルエンタテインメント・コンテンツの企画、開発、販売及び運営を行っております。デジタルエンタテインメント・コンテンツは、顧客のライフスタイルにあわせて、家庭用ゲーム機(携帯ゲーム機含む)、PC、スマートデバイス等、多様な利用環境に対応しています。

当第1四半期連結累計期間のHD(High-Definition)ゲームにおいては、「FINAL FANTASY XVI」、「ファイナルファンタジー ピクセルリマスター」等を発売した前年と比較して、新作タイトルからの売上が減少したことにより、前年同期比で減収となりました。一方で、開発費の償却負担や広告宣伝費が前年から減少したこと等により、黒字転換となりました。

MMO(多人数参加型オンラインロールプレイングゲーム)は、前年同期比で増収増益となりました。

スマートデバイス・PCブラウザ等をプラットフォームとしたコンテンツにおいては、既存タイトルの弱含み等により前年同期比で減収となったものの、運営にかかる費用の最適化により増益となりました。

当事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は43,905百万円(前年同期比29.6%減)となり、営業利益は9,771百万円(前年同期比255.9%増)となりました。

○アミューズメント事業

アミューズメント施設の運営、並びにアミューズメント施設向けの業務用ゲーム機器・関連商製品の企画、開発及び販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間は、既存店売上高が前年を上回ったことにより、前年同期比で増収増益となりました。

当事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は15,177百万円(前年同期比13.9%増)となり、営業利益は1,491百万円(前年同期比0.7%増)となりました。

○出版事業

コミック雑誌、コミック単行本、ゲーム関連書籍等の出版、許諾等を行っております。

当第1四半期連結累計期間は、コミックス全般の販売好調により、デジタル販売及び紙媒体の販売が前年を上回った結果、前年同期比で増収増益となりました。

当事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は6,911百万円(前年同期比15.8%増)となり、営業利益は2,490百万円(前年同期比17.0%増)となりました。

○ライツ・プロパティ等事業

主として当社グループのコンテンツに関する二次的著作物の企画・制作・販売及びライセンス許諾を行っております。

当第1四半期連結累計期間は、有力IPにかかる新規キャラクターグッズの販売が前年を下回ったこと等によって、前年同期比で減収となったものの、商品別における売上構成比の変化等により増益となりました。

当事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は4,446百万円(前年同期比6.4%減)となり、営業利益は1,622百万円(前年同期比25.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は343,259百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,039百万円増加しました。これは主にコンテンツ制作勘定が8,387百万円、商品及び製品が1,016百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が5,899百万円減少したことによるものであります。固定資産は70,010百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,646百万円減少しました。

この結果、総資産は、413,270百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,393百万円増加しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は76,105百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,453百万円減少しました。これは主に賞与引当金が3,191百万円、未払法人税等が2,960百万円減少したことによるものであります。固定負債は12,188百万円となり、前連結会計年度末に比べ1百万円増加しました。

この結果、負債合計は、88,294百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,452百万円減少しました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は324,975百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,846百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益10,620百万円及び剰余金の配当3,358百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は78.5%（前連結会計年度末は77.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期通期連結業績予想については2024年5月13日に公表した内容から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	225,901	225,915
受取手形及び売掛金	44,683	38,783
商品及び製品	4,684	5,700
仕掛品	—	408
原材料及び貯蔵品	1,033	1,602
コンテンツ制作勘定	48,577	56,964
その他	14,561	14,028
貸倒引当金	△221	△143
流動資産合計	339,219	343,259
固定資産		
有形固定資産	23,075	23,317
無形固定資産	5,881	5,950
投資その他の資産	42,698	40,743
固定資産合計	71,656	70,010
資産合計	410,876	413,270

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,384	24,484
未払法人税等	6,978	4,017
賞与引当金	5,345	2,154
返金負債	4,410	4,224
資産除去債務	9	9
その他	40,431	41,214
流動負債合計	81,559	76,105
固定負債		
事務所退去費用引当金	883	883
退職給付に係る負債	4,311	4,408
資産除去債務	4,902	4,903
その他	2,090	1,994
固定負債合計	12,187	12,188
負債合計	93,747	88,294
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,039	24,039
資本剰余金	54,368	54,485
利益剰余金	254,741	262,003
自己株式	△7,876	△7,686
株主資本合計	325,272	332,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△305	50
為替換算調整勘定	△9,038	△9,085
退職給付に係る調整累計額	566	542
その他の包括利益累計額合計	△8,776	△8,492
新株予約権	378	352
非支配株主持分	255	272
純資産合計	317,129	324,975
負債純資産合計	410,876	413,270

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	85,669	69,915
売上原価	49,144	29,254
売上総利益	36,525	40,660
販売費及び一般管理費	33,427	29,815
営業利益	3,097	10,844
営業外収益		
受取利息	183	388
受取配当金	0	200
為替差益	5,835	4,912
有価証券運用益	9	271
雑収入	64	166
営業外収益合計	6,093	5,939
営業外費用		
支払利息	7	35
支払手数料	1	287
移転関連費用	—	508
暗号資産評価損	3	—
事業構造改善費用	—	635
雑損失	0	19
営業外費用合計	12	1,486
経常利益	9,178	15,297
特別利益		
固定資産売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産売却損	—	4
固定資産除却損	43	30
投資有価証券評価損	—	427
特別損失合計	43	462
税金等調整前四半期純利益	9,135	14,836
法人税、住民税及び事業税	1,460	1,422
法人税等調整額	1,368	2,787
法人税等合計	2,829	4,210
四半期純利益	6,305	10,626
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	5
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,300	10,620

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	6,305	10,626
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△68	355
為替換算調整勘定	△76	△35
退職給付に係る調整額	△39	△24
その他の包括利益合計	△184	295
四半期包括利益	6,121	10,921
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,111	10,904
非支配株主に係る四半期包括利益	10	17

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	1,620百万円	1,742百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタルエン タテイン メント 事業	アミューズ メント 事業	出版 事業	ライセンス・ブ ロパティ等 事業	計		
売上高							
国内	32,988	12,829	5,605	1,370	52,794	—	52,794
海外	29,374	274	340	2,876	32,865	—	32,865
顧客との契約から生じ る収益	62,363	13,103	5,945	4,247	85,660	—	85,660
その他の収益	9	—	—	—	9	—	9
外部顧客への売上高	62,373	13,103	5,945	4,247	85,669	—	85,669
セグメント間の内部売 上高又は振替高	1	226	23	500	752	△752	—
計	62,375	13,330	5,969	4,747	86,422	△752	85,669
セグメント利益	2,745	1,481	2,129	1,290	7,646	△4,548	3,097

(注) 1. セグメント利益の調整額△4,548百万円には、報告セグメントに帰属しない一般管理費△4,576百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 収益分解情報は、「国内」及び「海外」に区分して記載しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタルエン ターテイン メント 事業	アミューズ メント 事業	出版 事業	ライツ・プ ロパティ等 事業	計		
売上高							
国内	22,359	14,617	6,245	1,918	45,140	—	45,140
海外	21,503	299	656	2,273	24,733	—	24,733
顧客との契約から生じ る収益	43,862	14,917	6,901	4,192	69,874	—	69,874
その他の収益	40	—	—	—	40	—	40
外部顧客への売上高	43,903	14,917	6,901	4,192	69,915	—	69,915
セグメント間の内部売 上高又は振替高	1	260	9	253	525	△525	—
計	43,905	15,177	6,911	4,446	70,440	△525	69,915
セグメント利益	9,771	1,491	2,490	1,622	15,375	△4,531	10,844

(注) 1. セグメント利益の調整額△4,531百万円には、報告セグメントに帰属しない一般管理費△4,541百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 収益分解情報は、「国内」及び「海外」に区分して記載しております。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年8月9日

株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 原科 博文

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 倉持 太郎

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングスの2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2024年4月1日から2024年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2024年4月1日から2024年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準(ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。)に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準(ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。)に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準(ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。)に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。